

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年1月29日

協議会名:河内長野市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
南海バス株式会社	日野・滝畑コミュニティバス	<p>【前回評価結果】 輸送人員目標未達成の路線については、今後利用者数の確保がますます厳しい状況になると予想される。引き続き、様々な利用促進策を講じて利用者数の維持、充実に取り組む必要がある。</p> <p>【反映状況】 バスマップやバス時刻表、ポケット時刻表を市役所、図書館、観光案内所等の公共施設で配架し、バスロケーションシステムの案内も行った。また、沿線にある道の駅 奥河内くろまるの郷、大阪府立 花の文化園、河内長野市立林業総合センター「木根館」、檜尾山観心寺等の商業・観光施設や関西サイクルスポーツセンター等のレジャー施設と連携し、企画乗車券の特典への協力店舗を拡充し、バスを利用するきっかけ作りのみならず、バス利用に付加価値を付ける取り組みを行った。 また、文化財担当課と協力し、沿線の観光施設情報やバスでのアクセス方法を掲載したパンフレット(「河内長野市 ヒストリップ」(河内長野市文化財探訪ブック))を市内公共施設や大阪市内等で配布した。 さらに市HPや広報紙、公式facebookでも企画乗車券のPRや、文化財担当課と連携し、天野山金剛寺のイベント開催に合わせて、天野山線のPRを行った。 市民まつりや商工祭では、交通事業者の協力を得て、バス等の車両の展示、子ども用制服を用いた乗務員体験やクイズ大会を実施するなど、公共交通をもっと身近に感じてもらおうための取り組みを進め、輸送人員の増加に努めた。</p>	A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p> <p>【運行回数】 目標:現状維持→実績:○ 【輸送人員】 目標:維持もしくは増加→実績:○ H29:83,285人→H30:84,222人</p>	<p>地域住民の生活路線であり、沿線に商業・レジャー施設が点在する観光路線でもあるため、今後も市HPや広報紙、公式facebookなどあらゆる媒体で交通事業者や沿線の観光・文化施設の担当部署と連携し、バスロケーションシステムや企画乗車券のPRを行うなど、公共交通の情報発信に積極的に努めていきたい。</p>
南海バス株式会社	日野・滝畑コミュニティバス2(奥河内くろまるの郷経由系統)		A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p> <p>【運行回数】 目標:現状維持→実績:○ 【輸送人員】 目標:維持もしくは減少幅の抑制→実績:○ H29:42,501人→H30:40,859人</p> <p>※H29年10月、H30年9月に各月2回台風が上陸したこともあり、各月の対前年同月比はそれぞれ10.6%、17.5%減少している(H29年10月輸送人員の対前年度比89.4%、H30年9月輸送人員対前年度比82.5%)。加えて、人口減少率が約1.2%(H29.9月末 107,476人→H30.9月末 106,143人)であることから、通年の輸送人員の対前年度比約3.9%の減少は減少幅を抑制できたと考えられる。</p>	<p>山間部の集落へ向かう路線のため、需要喚起が難しいが、引き続き沿線の観光名所である檜尾山観心寺と連携し、企画乗車券の特典への協力店舗を拡充し、公共交通の利用に付加価値を付ける取り組みを実施する。また、文化財担当課と連携し、英語版の「河内長野市 ヒストリップ」(河内長野市文化財探訪ブック)を作成し、関西国際空港や大阪市内でも配布するなど、沿線住民だけではなく市外からの来訪者へ沿線の観光施設へのバスでのアクセス方法のPR等に努めていく。</p>
南海バス株式会社	路線バス小深線2(石見川系統)		A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p> <p>【運行回数】 目標:現状維持→実績:○ 【輸送人員】 目標:維持もしくは減少幅の抑制→実績:○ H29:72,838人→H30:75,772人</p>	<p>輸送人員が増加している日野・滝畑コミュニティバスと並走している路線のため、利用者が分散していると考えられるが、今後も、利用者のニーズ把握に努め、互いの路線の相乗効果を図っていくとともに、沿線施設や観光担当部署と連携し、沿線施設の情報発信を行うなど、引き続き需要喚起に努める。</p>
南海バス株式会社	路線バス高向線1(高向起終点系統)		A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p> <p>【運行回数】 目標:現状維持→実績:○ 【輸送人員】 目標:維持もしくは減少幅の抑制→実績:○ H29:167,850人→H30:166,828人</p> <p>※H29年10月、H30年9月に各月2回台風が上陸したこともあり、各月の対前年同月比はそれぞれ4.5%、2.5%減少している(H29年10月輸送人員の対前年度比95.5%、H30年9月輸送人員対前年度比97.5%)。加えて、人口減少率が約1.2%(H29.9月末 107,476人→H30.9月末 106,143人)であることから、通年の輸送人員の対前年度比約0.6%の減少は減少幅を抑制できたと考えられる。</p>	<p>文化財担当課と連携し、英語版の「河内長野市 ヒストリップ」(河内長野市文化財探訪ブック)を作成し、市内公共施設や関西国際空港、大阪市内等で配布するなど、沿線住民だけではなく市外からの来訪者へ沿線の観光施設へのバスでのアクセス方法のPR等に努めていく。また、沿線施設や文化財・観光担当部署や隣接する和泉市とも連携し、市HPや市公式facebookで公共交通の利用啓発に積極的に努めていきたい。</p>
南海バス株式会社	路線バス天野山線5(旭ヶ丘系統)		A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p> <p>【運行回数】 目標:現状維持→実績:○ 【輸送人員】 目標:維持もしくは減少幅の抑制→実績:○ H29:16,170人→H30:15,771人</p> <p>※H29年10月、H30年9月に各月2回台風が上陸したこともあり、各月の対前年同月比はそれぞれ2.4%、15.4%減少している(H29年10月輸送人員の対前年度比97.6%、H30年9月輸送人員対前年度比84.6%)。加えて、人口減少率(H29.9月末 107,476人→H30.9月末 106,143人)が約1.2%であることから、通年の輸送人員の対前年度比約2.5%の減少は減少幅を抑制できたと考えられる。</p>	
南海バス株式会社	路線バス天野山線4(天野山起終点系統)		A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p> <p>【運行回数】 目標:現状維持→実績:○ 【輸送人員】 目標:維持もしくは増加→実績:○ H29:12,554人→H30:14,286人</p>	
南海バス株式会社	路線バス天野山線3(サイクルセンター系統)	A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>		

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成31年1月29日

協議会名:	河内長野市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>河内長野市は大阪府の南東端に位置し、人口約10万8千人、面積は109.63km²と府内で3番目に広い。市域の約7割を森林が占め緑豊かな環境である一方、住宅団地が点在するため公共交通は市民生活を支える大切な交通手段である。</p> <p>しかしながら、人口減少や少子高齢化、ライフスタイルの変化などの要因により、路線バスやコミュニティバス等の公共交通利用者が年々減少を続けており、持続可能な公共交通を確保することが極めて厳しい状況にある。そのため、住民、交通事業者、行政などの関係者による協働の取り組みを進め、市内を運行する路線バスやコミュニティバス等の公共交通の維持・充実を図る必要がある。</p> <p>また、高齢化率が府内の市の中で最も高いことから、高齢化の進展や市民ニーズに対応した公共交通ネットワークの構築を目指す。</p>